

コープ災害ボランティアネットワークニュース

発行2016年1月 第82号
東京都生活協同組合連合会
コープ災害ボランティア
ネットワーク幹事会
TEL03-6844-3563

2015年度・第15期コープ災害ボランティア養成講座終了

今年度も「コープ災害ボランティア養成講座」を開催、会員生協の組合員と職員 42 名が受講し、コープ災害ボランティアネットワーク（以下・CO 災ボ）の第15期生として41名が会員になりました。阪神淡路大震災後のボランティア活動経験を契機に、地域のボランティア活動の中心となる人材の育成を目的に2002年に発足したCO 災ボの養成講座も第15期生を迎え500名を超える会員が登録するまでになりました。第15期の養成講座の様子をお知らせします。この機会に会員としての視点で是非振り返ってみてください。

第15期 CO 災ボ養成講座

- 第1回 10/3 開講式・オリエンテーション
- 第2回 10/17 防災・減災の視点でまち歩きとマップづくり
- 第3回 10/31 普通救命講習
- 第4回 11/28 避難所運営ゲーム(HUG)
- 第5回 12/5 クロスロード風ゲーム、修了式



<15期養成講座修了生>

コープみらい	18名
パルシステム東京	10名
東都生協	5名
全労済	2名
生活クラブ連合会	1名
八王子保健	1名
東京都生協連	4名
計	41名

第1回 開講式・オリエンテーション

受講者 42 名(職員 14 名・組合員 28 名)

東京都生協連・伊野瀬会長理事から、「ボランティアのニーズに合った動き、被災者に寄り添うことが大事と考えている。それをこの講座で学んで欲しい」と開講の挨拶があり、事務局からCO 災ボの活動報告、CO 災ボ幹事からは被災者支援で本当に求められるモノは何かについてお話がありました。

その後、6グループに分かれてのグループワークを行ないました。グループ分けはなるべく同じ地域の参加者が話し合えるように行ないました。グループ交流のテーマは「0次の備え」「東京で大災害発生」「3.11のふりかえり」の3点、活発な意見交換があり発表では、いろいろな気づきを参加者全員で共有することができました。

第1回の講座については、CO 災ボ幹事が講師となり行ないました。

グループ交流での3つのテーマについて、みなさんは、どう考えますか？いつもカバンの中に入れておく防災グッズ、家の備蓄品などもう一度確認してみましよう。また、東京で大災害が発生したら？家族会議などで避難場所の確認や災害ダイヤルの使い方など話し合うのも必要です。
★常に家族写真を携帯するのも忘れずに…ワークの中で話し合われました。支援物資では届かない物です。また、万が一の時に役に立つかも知れません。



開講にあたり、会長理事、代表幹事から、コープ災害ボランティアネットワークの目指すところや、ボランティアの大切な心構えなどが話されました。



東京都生協連
伊野瀬会長理事



大矢代表幹事

第2回 防災・減災の視点でのまち歩きとマップづくり

東京災害ボランティアネットワーク事務局長の福田信章さんを講師に、防災・減災の視点でのまち歩きの進め方を学び、実際にロードワークをしました。地図にロードワークで得た情報を地図落としにするにあたり、マップづくりの方法を学習し、グループではまち歩きの様子を共有してからとりかかりました。マップづくりは、各々が持つ地図に記載したことを出し合い、補いながら、和気あいあいと楽しく行ない、その後グループからの発表を行ない、グループで作成したマップを全員で共有し、みんなでまち歩き・マップづくりをすることの意義や楽しさを共感しました。

まち歩き・マップづくりトレーナー養成講座を受講した会員がファシリテーターとして参加したことは、会員のこれからの活動の仕方の一つとして考えられ、更に本人のスキルアップにつながったようです。



地域の防災マップやハザードマップに自分が確認した防災・減災の視点を書き加えておくことだけで、いざという時の備えになります。



公園では、重要なポイントを紙芝居仕立てにした資料を使って説明しました。

身近な地域で実践し、近所の方や地域のコミュニティーで確認しあっておくことができると良いですね。

第3回 普通救命講習

中野消防署東中野出張所を会場に開催されました。元救急隊員で今は防災救急を分かりやすくお話ししながら救命講習を広げていらっしゃる講師の方から、「応急手当の重要性」「救命処置」「応急手当」などお話をいただき、その後、心肺蘇生の実践を行ないました。講師の方の他に4名の補助の方が付き、丁寧な説明のもと実践を行ないました。

「受講者の方、みなさん真面目に一生懸命に取り組んでいますね」との感想を頂いた通り、どの顔も真剣そのもので講師の方の「とにかく諦めずに命を救ってください」という教え通りの実践ができました。



救命講習の受講者には、「救命技能認定証」が授与されます。会員の方もお持ちだと思いますが、裏面には「救命技能を向上させるためには定期的な講習が必要です。3年以内に再講習を受講してください。」とあります。

機会がありましたら、お近くの消防署に問い合わせてください。一般向けに講習会が開催されていることがあります。せっかく習得した技術を忘れないように機会を見つけ参加してください。

参加者感想

- ◆とっさの時に役立てるよう、ときどき振り返りたいと思います。
- ◆周りの方に声をかけて協力して救命にあたるのが大切だと思いました。



第4回 避難所運営ゲーム (HUG)

東京災害ボランティアネットワークの福田信章さんを講師に、避難所運営ゲームを実施しました。静岡県危機管理局が作成したカードを使い、福田さん独特の視点で捉えた方法で行なうカードゲームです。

発災後に避難してくる住民の様々な状況（家族構成、健康状態、心理状態など）を考えながら、避難所のどこで生活してもらうか、また、その後に起こるだろう問題（トイレ、水、取材対応など）についても考え、グループのメンバーでその一つ一つの解決のヒントを出し合い良い方法を考え出すというゲームでした。ゲームがすすんでいくと個々の意見を活発に出し合う声、机上をにらみながら考える真剣な顔で会場は熱気にあふれていきました。最後には、気になった避難者のことや問題をグループから発表し、そのヒントを共有しました。様々な対応が求められることや、地域（近所づきあい、施設の場所など）

について普段から考えて暮らすこと、一番大事な視点は人を見て考えること、その大切さを改めて学びました。



第2回・第4回・第5回
講師：東京災害ボランティアネットワーク
事務局長 福田信章氏

「風邪をひいて熱が高い子どもを連れて避難」「犬やハムスター、ペットも家族だから同じ部屋で」「車いすで独り暮らし」いろいろな事情を抱えた被災者、それに加え「トイレ使用禁止」「取材依頼」「支援物資到着」次から次と難題が…
会員のみなさんだったら、避難所をどう運営していきますか？部屋割りはどうしますか？など考えました。

第5回 避難所について考えるクロスロード風ゲーム・修了式

第4回から引き続き、東京災害ボランティアネットワーク事務局長の福田信章さんを講師に、避難所運営を考えるクロスロード風ゲームを通してグループワークを実施。避難所に持ち込まれる難題に対して2例の方法が提示され選択します。グループで意見が分かれたらより良い解決方法をグループで意見交換し導き出していきます。正解があるものではないのですが、一人ひとりが少しでも暮らしやすい避難所を運営していけるヒントをもらえました。

修了式では、東京都生協連・竹内専務より受講者の代表に修了証が手渡され、引き続き皆勤賞も手渡されました。竹内専務からは、コープ災害ボランティアの一員として、学んだことを生かして活躍してほしいと話され、CO 災ボ松本副代表幹事からは、今日から会員になったことを改めて説明し、今後に期待すると養成講座を締めくくる挨拶がありました。

【クロスロード風ゲーム】の1例

発災直後の混乱している時期

授乳をする母親のために授乳スペースをどうするか

A 授乳スペースを確保する

B 特に設けない

さあ、あなたならAとBどちらを選びますか？

また、何か良い案（C案）を考えてみましょう。

「恥ずかしがらずにその場で授乳すればいい」「静かなスペースでゆっくり授乳させてあげたい」「ママ同士で励まし合える空間を作ってあげたい」などグループ内で活発な話し合いがありました。一人ひとりに寄り添い考え、みんなが暮らしやすい避難所にしていくことは大変難しいこと。運営協議会などで少しずつ確認しながら備えることができると良いですね。

修了式



東京都生協連
竹内誠専務理事から修了証が手渡されました。今日からCO災ボの会員です。

【どのような企画や講座があったら参加したいと思いますか？】

第5回参加者アンケートから

- 帰宅困難者訓練
 - 防災備蓄品を製造している企業訪問
 - 応急手当の仕方
 - 簡易トイレについて設置など実践
 - 炊き出し料理教室
- スキルアップ講座などでフォローできたらよいと考えています。身近な地域で実施してみてもよいですね！

